

第53回 大月市生涯学習推進大会 報告書

日 時 平成27年3月1日（日）於
会 場 大月市中央公民館（市民会館）大ホール

【見つめよう！地域の力】



まちづくり



ひとづくり

いつでも、どこでも、だれでも学べる

大月市教育委員会



第53回大月市生涯学習推進大会 実施要項

1. 大会テーマ 【見つめよう！地域の力】

2. 大会主旨

小さなことでも続けていくことで次第に仲間も増え、大きな活動へと繋がっていき、そこには世代も性別も関係なく、市民同士の絆を育み、地域の輪が形成されていくものである。私達の住む地域にもすでに多くの方々が地域づくりの活動をしており、活力ある大月市の創造を担っているところである。

本大会では行動を起こしている方々の事例発表を通して、地域住民の繋がりが大月市の未来を培っていくことを学び、市民1人ひとりが今何をすべきか、地域とどのように関わっていくべきかを改めて考え、ふるさと大月への郷土愛をさらに育んでいくことを主旨とする。

3. 主 催 大月市教育委員会・大月市社会教育委員会・大月市公民館連絡協議会

4. 日 時 平成27年3月1日（日）午後1時30分 開会

5. 会 場 大月市中央公民館（市民会館）大ホール

6. シンポジウム（第1部：パネリスト発表 第2部：会場との対話「意見・情報交換」等）

生涯学習の実践と成果の活用、学習に踏み出すための情報の提供や交換から生涯学習の楽しさを感じてもらう。

○コーディネーター

上野原市立上野原小学校校長・前山梨県教育庁社会教育課長
近藤 周利 氏

○パネリスト

- ・小林 頼正 氏（笹子町林業研究会）
- ・小侯 幸一 氏（ファーマーズ ビレッジ ハッピーランド）
- ・清水 壽子 氏（大月市放課後子ども教室 織物教室）

7. その他

- ・展示等 社会教育関係団体の紹介及び出店（1階 レストラン、ロビー）
各地区公民館・各社会教育団体の実施事業写真展（1階 ギャラリー）
中央公民館利用団体作品展（2階 市民ギャラリー）
無脳薬の会による実践そば食堂
- ・アトラクション
じょいそーらん扇華

8. 時間設定	出 店	12:00～
	受付・開場	12:45～
	アトラクション	13:10～13:25
	開会行事	13:30～14:00
	シンポジウム	14:00～15:55
	閉 会	～16:00

コーディネーター紹介



こんどう ひろし
近藤 周利氏

上野原市立上野原小学校 校長 前山梨県教育庁社会教育課長

昭和54年4月に本県教員として採用され、大月西小学校、猿橋小学校で勤務し、昭和63年度より上野原地区の小学校で勤務しています。平成21年4月より県教育委員会へ異動になり、義務教育課また社会教育課で勤務しました。社会教育課在任中は、全国社会教育研究大会山梨大会の開催や新県立図書館の開館、ことぶき勸学院の組織再編、しなやかな心の育成プロジェクトの推進などに取り組んできました。また、研修会等で「学校を舞台にした社会教育活動の展開」を提唱し、学校・家庭・地域が連携した社会教育の在り方について講演をさせていただきました。

今回の生涯学習推進大会では、パネリストの皆様の活動と活動を繋ぐとともに、ご来場の皆様にも参加していただき、「絆づくり」「人づくり」「地域づくり」について話し合い、ふるさと大月の未来を考えたいと思います。

パネリスト紹介



こばやし よりまさ
小林 頼正氏

『地域活性化は地域住民の手 (笹子町林業研究会)』

60歳で現役を退職し7年。区長・町政運営委員会などを経験させていただき多くの皆様にご指導・ご協力をいただき、今、林業研究会を先輩達から引き継ぎ素晴らしい仲間13人と、なにか地域の活性化に恩返し出来ないかとの共通感のもと、資格や研修会を通じ個々の能力の向上も図りつつ、森林事業に努力している毎日です。また、趣味のゴルフや温泉旅行を楽しみ、リフレッシュもしながら家族7人わいわい、がやがやの暮らしも楽しんでいきます。今後もいろいろな計画がありますが身体に気をつけ頑張っていきたいです。

思えば、「鶏が先か、卵が先か」から始まった人づくりが今の自分の始まりです。そんな環境の中で「人生最期は、ボランティア」の精神で頑張り、安全・安心で暮らせる街づくりに努力していきます。

パネリスト紹介



おまた こういち
小俣 幸一氏

(ファーマーズ ビレッジ ハッピーランド)

若い頃は、都会にあこがれ東京の大学に4年。その後、就職で高崎へ。長男ということもあり、25歳で地元の大月・甲府に保険代理店事務所を開設。募集活動約40年。3人の子ども達も長男は私の仕事の後継に当たり、2人の娘も結婚。若いころから続けてきた音楽やアウトドア。還暦を機に開花したいと妻に相談。2年ほど前に承諾をいただき、退職。糸の切れたたこの如く人生を謳歌。好きな野良仕事で自然と対話し、週末は音楽活動で東京のライブハウスへ。自宅ではファーマーズビレッジハッピーランド主宰。年間を通し四季にあったイベントを開催。春の山菜を食べる会、お田植え祭り、秋の収穫祭、年の瀬の餅つき大会、など会を重ねるごとに参加人数が読めず頭を抱えているのが現状です。



パネリスト紹介



しみず ひさこ
清水 壽子氏

(大月市放課後子ども教室 織物教室)

私は、生家が織物業をされており、嫁ぎ先でも織物をしていた関係で、2003年2月16日に発足した「大月織物研究会」の一員として、大月市放課後子どもプランの「織物教室」に参加させていただき、今日になります。

何よりも子ども達に大月市の伝統地場産業である「織物」を伝えていく。それと同時に大人達も織物を学ぶという目的に共感いたしました。

かつては富士吉田市から上野原市まで甲斐絹・郡内織として日本の絹織物の医大産地として栄えた地域が今は一部の方々だけで頑張っている姿に是非とも大月の地場産業である織物を誇りに、子ども達と共に楽しみながら伝えていきたい！！
そんな思いで多くの方々のご協力をいただきながら活動を続けております。

第53回大月市生涯学習推進大会 シンポジウム記録

■ 趣旨説明 【大月市社会教育委員 橋本 幸子】

ここで、シンポジウムに先立ちまして、大会の経緯と主旨について、簡単にご説明いたします。

まず始めに経緯についてでございますが、今大会は6回に渡る社会教育委員会において、大会テーマや内容を決めて参りました。会議では、各委員から提案された大会内容案を関連する課題ごとにまとめ、それぞれの提案について社会教育との結び付きを考えながら検討を重ね、今大会テーマであります「見つめよう！地域の力」及び内容が決定いたしました、

続いて、大会主旨でございますがお手元のプログラムに記載してあります通り、小さなことでも続けていくことで、次第に仲間も増え、大きな活動へと繋がっていき、そこには世代も性別も関係なく、市民同士の絆を育み、地域の輪が形成されていくものであります。私達の住む地域にもすでに多くの方々が地域づくりの活動をしており、活力ある大月市の創造を担っているところであります。

本大会では行動を起こしている方々の事例発表を通して、地域住民の繋がりが大月市の未来を担っていることを学び、市民1人ひとりが今何をすべきか、地域とどのように関わっていくべきかを改めて考え、ふるさと大月への郷土愛をさらに育てていくことを主旨といたします。



■ シンポジウム開始

【近藤コーディネーター】

ご紹介いただきました上野原小学校の近藤と申します。本日はコーディネーターを務めさせていただきます。パネリストの皆様、会場の皆様ご協力の程お願い致します。それではシンポジウムの流れについてご説明申し上げます。始めに私の方から本日のシンポジウムに繋がるご提案をさせていただき、次に3名のパネリストの皆様からそれぞれの活動を発表させていただきます。おおよそ15時前後になろうかと思いますが、発表が終わりましたところで、第2部といたしまして、コーディネーターの私とパネリストの3名でディスカッションをさせていただきます。後半からは、本日もたくさんご来場いただいておりますので、フロアの皆様もご参加いただく中で、意見交換、情報交換、そして感想発表をいただければと思っております。シンポジウムの終了時刻は15時50分を予定しております。特に休み時間を設けませんのでそのまま進めさせていただきます。よろしくお願い致します。

それでは私の方からいくつかご提案をさせていただきます。

まず、1枚目のスライドをお願い致します。キーワードとしてご提示させていただきます。まずは「つなぐ」です。この言葉は震災後いろいろな形で使われている言葉でございますけ



れど、この「つなぐ」という言葉は絆作りや地域作りという形で、人と人をつなぐことをこのシンポジウムの1番大切なことと捉えております。ということでこの「つなぐ」を最初のキーワードとさせていただきます。本日は3名のパネリストの皆さんを繋いで、さらにフロアにいる皆様を繋いでこの会が進められればと思っているところでございます。

次のスライドをお願い致します。キーワードの2でございます。「できること、できるとき、できるだけ」でございます。これは私も教えて頂いた言葉ですが、いつも使わせてもらっている言葉です。簡単に言いますと、無理をしない、続けられるということを前提に考えていきたいと思えます。持続可能社会という言葉がございますように継続することが1番大事なことです。無理をしないで続けられることがこの生涯学習を含めて大切になります。

次のスライドをお願い致します。キーワードの3つ目でございます。「1人1人の生涯学習」ということです。生涯学習の輪を広げていきたいなと思っております。今回3名のパネリストの皆様のご提案の中で皆さんもこういうことをやってみたいという思いが出てくると思いますが、そういう中で今社会教育も含めましてこの輪を広げていきたいと思っております。本日のシンポジウムを終えたところで皆様がこの会場をお出になる時、「あの活動面白そうだったな」「自分でも何かやってみようかな」とお思いになってこの会場をお出になればこのシンポジウムも役を果たせたかなと思えます。ぜひともそういう思いをお持ちになってこのシンポジウムにご参加いただければと思っております。

それでは次のスライドをお願いします。今まで3つのキーワードを持ってシンポジウムにご参加いただきたいのですが、ここで生涯学習とか社会教育という言葉を紹介させていただきます。まず「社会教育」ということを考えた時に「教育」ということが全体にありますけれど、この教育の中から「学校教育」を除いた残りが「社会教育」となるという風にお考えいただきたいと思えます。そういう意味で考えますと社会教育というのは大変広い範囲になります。

この中で社会教育が提供する学習内容は下にあります「生涯学習」でございますが、生涯学習の内容も含んでいるということになります。さて、その下に「生涯学習とは」と書かせていただきましたが、その中で3つの言葉を出しています。「生涯にわたって」「あらゆる機会や場所」「成果を生かす」ということです。学んだ事をいかに活かせるかということが大事となっています。これも今回のシンポジウムでは重要になってきます。

それでは次のスライドをお願いします。そういう中で誰もがいつでもどこでも学習できる、そしてその学習の成果を活かすことができる社会を生涯学習社会と言います。その中で生涯学習社会を作っていくことがこの推進大会の狙いという事になると考えております。

キーワード1

つなぐ

絆づくり 地域づくり

キーワード2

できること

できるとき

できるだけ

無理をしない 続けられる

キーワード3

市民一人一人の

生涯学習

社会教育活動

生涯学習・社会教育活動の輪を広げよう

社会教育とは...

学校教育法に基づき、学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動をいう。

教育 - 学校教育 = 社会教育

生涯学習とは...

生涯にわたって、各自の自発的意思に基づき、必要に応じて、自己に適した手段・方法を自らの責任において自由選択し、行う学習をいう。

生涯にわたって あらゆる機会 あらゆる場所 成果を生かす

次にこの成果を活かす方法として、次のスライドをお願いします。先ほどご紹介いただきました通り、学校を舞台にした生涯学習、社会教育ということをご提唱させていただきましたが、私も社会教育にいた時からこの形の中で学校との連携を取りながら進めていきたいという事を提唱させていただきましたところでございます。そういう中で生涯学習も社会教育も私の考えた中では生涯学習で学んだ事の成果を学校支援にご活用いただけないかなというところがあります。そういう点で学校教育との連携がそれぞれ関わってくることで活性化することに繋がるだろうと思います。見ていただきますと分かりますけれど、例えば生涯学習で学んだことをもとに学校支援をということで、今日のパネリストの皆様からも学校との連携が出てきますが、そういう取り組みからその循環の中でさらに学習を深める事ができるのではないかと思います。そういう点で学校支援ボランティアという形で地域の皆様にもご協力いただきながら学習成果を活かす場として捉えていただきたいと思います。黄色いところで書いてありますが、学校支援地域本部事業というのは全国的な名称でありまして、山梨県では「やまなし学校応援団育成事業」という風にしております。例えば見守り隊ということで地域のお年寄りが子ども達の登下校に付き添っていただくとか、学習支援をいただいたり、部活動の専門の力をお持ちの方はお手伝いいただくとか、木が伸びたから切りますよという支援もあります。そして1番最後に放課後子ども教室というものがありますが、後で紹介させていただきますが、織物教室がまさにこの放課後子ども教室でありまして、放課後子ども達の安全・安心のための取り組みということで取り組んでいるわけでありまして。

さて、長くなりましたが、少子高齢化という言葉がいろんなところで課題があるところがございますが、昨日データの確認をさせていただきましたので、ご紹介させていただきます。実は昨年の9月の時点で全国を見ますと65歳以上の高齢者の人口が国は約25、9パーセントとなっていて、4人に1人は高齢者となっています。そして大月の状況を調べましたら、昨年の7月1日現在の人口を見る中で65歳以上の割合は32、7パーセントとなっています。大月の場合は3人に1人は高齢者となっています。高齢化率が国に比べても高くなっている中で、皆さん「どうしよう」と思うかもしれませんが、逆転の発想をしまして、高齢者の皆さんというのはこれからの長寿社会においてどういう風に捉えていくかということですが、実際に社会にあるいろんな課題を解決してくれる優秀な人材であるということです。そういう意味で高齢者の皆さんに進んでこの生涯学習に取り組んでいただく中で力を高めていただき、そして地域のために力を貸していただくことをお願いしたいと思います。大変長くなりました。ただいまご提案させていただきましたことを少しお感じいただきながらこの後のシンポジウムにご参加いただきたいと思います。

それでは始めに笹子町林業研究会の小林さんから発表をお願い致します。

生涯学習の理念(教育基本法)

国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会にあらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。

生涯学習社会

だれもがいつでもどこでも学習することができ、また学習の成果を生かすことのできる社会

- ①いつでも自由に学習の機会を選択することができる社会
- ②いつでも自由に学べる社会
- ③学習の成果が適切に評価される社会

社会教育の活性化に向けて

～学校を舞台にした社会教育活動の展開～

◆ 学校教育との連携

- ・学校支援活動の推進 → 社会教育の活性化 → 学校支援活動の充実につながる循環作りが求められる。
- ・学校支援ボランティア活動は学習成果を生かす1つの方法である。
- ・学校支援ボランティア活動に発展するよう工夫が必要である。

学校支援地域本部事業(やまなし学校応援団育成事業)
 学習支援 部活動支援 環境整備 安全指導
 子ども見守り隊 放課後子ども教室

■ 第1部 パネリスト発表

【パネリスト 小林 頼正 氏（笹子町林業研究会）】

本日は天気の悪い中、このようにたくさんのお客さんに集まっていただきまして、トップバッターとして大変緊張しております。笹子町林業研究会の小林です。よろしくお願い致します。

空の見える癒しの森の一部の写真を出させていただいております。この写真は先輩達と一緒に、白野の地区に区有林を間伐、枝打ちをして作った森を寝転がって下から見た写真です。その時にどのくらい癒され、どのくらい感動したかということでこれが私達林業研究会の原点となった写真でございます。この下から寝転がって見たたった1枚の写真ですけれど、皆さん森の中に入ったときに寝転がって上を見たことがありますか？本当に気持ちのいいものです。自分も夫婦で喧嘩したときは大きなおにぎりを2個と地元の好きな白缶のワンカップを持って2人で行って寝転ぶとまたいろんな思いが感じられる、そういう風な癒しの森です。それでは林業研究会の発表に入りたいと思います。次をお願い致します。

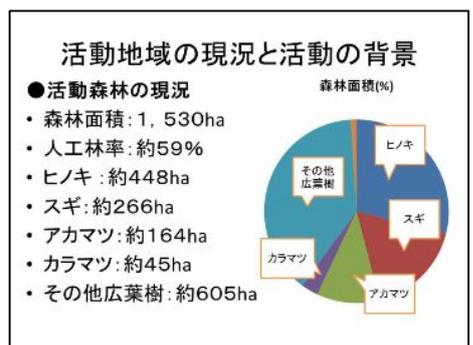
「水源森林の活性化～地域森林の整備は地域住民の手で～」ということでありまして、地域の状況と活動の背景についてから発表させていただきます。

私達が活動している大月市笹子町は笹子峠に源を発し、西から東に流れる笹子川に沿って集落が点在しております。町内にはJR中央線、中央自動車道、国道20号線などの幹線道路が東西に並行し、富士山方面へ向かう鉄道や国道の分岐点となっていることからもうかがえるように、古くから交通の要衝でもあります。また、町内を流れる笹子川は、大月市内で桂川と合流し、神奈川県相模川へと注いでおり、きれいな水を育む上流域としての役割も担っています。

活動の場としている民有林は、古くから造林が盛んに行われてきたことから、スギ・ヒノキを中心とした人工林が約6割を占めています。また、かつて木炭の生産が盛んに行われていたため、クヌギなどの広葉樹を中心とする里山林も残っており、バラエティーに富んだ林分構成となっています。

しかしながら、近年は森林所有者の高齢化や森林への関心の希薄化などを背景に、手入れ不足の人工林が多く見受けられるようになり、広葉樹林についても、人の手が入らなくなったために藪化するなど、荒廃が進んでいます。

また、本地域は首都圏に近いことから、地域の担い手となる若手の就業者が県外へ出ていく傾向が強く、地域全体の衰退も問題となっています。笹子には小学校中学校も統合のため学校がなくなり非常に寂



しい思いをしております。

つづきまして、グループの紹介をいたします。笹子町林業研究会は、水源地域という特性を踏まえ、森林の整備・保全に取り組み、地域に愛着を持つ人を増やして活性化につなげようと様々な活動を展開しています。

続きまして活動の紹介に入ります。今回は、次の4点についてご紹介します。

まず始めに「悲しみの森・癒しの森」トレッキングツアーです。笹子町内を流れる笹子川は、桂川と合流し相模川へとつながっています。このツアーは、地域住民だけでなく、下流の都市住民にも水源森林の現状を知ってもらい、問題意識を共有することで、森林整備への理解と協力を得たいと考え、実施しているものです。

平成21年度から検討を始め、平成22年度には実施に向けた登山道の整備や周辺森林の間伐を行い、平成23年度からツアーを開始しました。ルート選定や森林整備、広報活動などは、大月市役所を中心に、当研究会、地域住民で協議会を結成して進めました。また、ツアー内容の検討や広報手法については、民間の旅行会社であるJTBさんにも協力を仰ぎ、利用者が参加しやすく、楽しめるプランづくりに力を入れました。

このツアーの特徴は、手入れの行き届いた「癒しの森」を見るだけでなく、間伐や枝打ちをしていないために荒廃した「悲しみの森」も同時に巡る点です。2つの森林を比較することで、健全な森林と、うっそうと暗く木の根が露出した荒廃森林の違いを体感してもらい、森林整備の必要性を理解してもらうことができます。

平成23年度からの取り組みで、神奈川県など下流域の住民約100名、地域住民約60名に参加していただきました。

ツアーでは、森林の現況を見るだけでなく、森林ヨガなどの癒し体験や間伐体験も行っています。また、地元の郷土食材を使った「林業めし」をふるまうなど、地域の魅力をアピールすることも心がけています。取り組みはまだ始まったばかりですが、参加者の反応は良好で、普段は遠くにあって、目にすることのない水源域の森林の現状を知り、身近に感じるきっかけとなっています。今後は、商業ベースへの発展や新たなルートの開拓など、活動の幅を広げていく予定です。

2番目として、「子ども達の森林体験活動支援」です。自然に恵まれた笹子町においても、近年は子ども達が自然と触れあう機会が少ないのが現状です。当会では、子どもの頃から森林に親しみ、学ぶことで、地域の森林への愛着と理解が育まれると考え、地元の初狩小学校

グループの紹介

笹子町林業研究会

- 目的:水源地域という特性をふまえ、地域森林の手入れを通じ地域を活性化させる。
- メンバー:笹子町民
区長等が活動の中心(13名)

これまでの主な活動

- 荒廃している森林に関心を持ってもらい、森林の手入れを通じて地域を活性化することを目的とし、地域の推進役として活動。

①「悲しみの森・癒しの森」トレッキング



水源森林が荒廃していることを地域住民だけでなく都市住民にも理解してもらう。

①「悲しみの森・癒しの森」トレッキング



間伐、歩道の整備を行い、H23年度スタート

①「悲しみの森・癒しの森」トレッキング



悲しみの森

癒しの森

手入れをしない「悲しみの森」を設定

①「悲しみの森・癒しの森」トレッキング



間伐体験や交流会なども実施

の学校林で行われる植樹活動や草刈り、シイタケの植菌体験などの指導に毎年協力しています。シイタケ植菌は今年の2月にも実施いたしました。

また、平成26年度には大月市役所社会教育課のご協力をいただき市内のスポーツ少年団の親子約20組を矢立の杉登山道にある史跡や名所、森林保全についてのガイドをし、親子共同による木工体験を実施しました。

これらの活動は、学校側からも継続した活動の要望があると同時に、何よりも楽しそうな子ども達のために、今後も続けていきたいと考えています。

3番目として、「地域住民の憩いの場の整備」です。笹子町内には、地域住民に自然に親しんでもらうための「憩いの場」として、河川公園などが設けられていますが、当研究会ではこれらの「憩いの場」を活用できるよう、草刈りなどの整備を行っています。

また、当地は甲州街道最大の難所といわれる「笹子峠」で有名です。会では峠へ続く登山道の草刈りや階段設置などの整備を毎年実施しており、この活動は近年の軽登山ブームと相まって、地域の魅力アップにも一役買っています。滝子山についても、一昨年の大雪の際には倒木や橋などが崩れてしまい、その橋も会員で下から重い板を背負い上げて大変な思いをしたことがあります。

平成26年度には笹子町内の間伐材を利用し、JR笹子駅前の市有地に直売所を設置いたしました。

息の長い活動にするために林研の仕組み作りについてご説明いたします。笹子町林業研究会は、昭和52年に笹子町内の「森林所有者」を構成員として設立されました。設立当時は、自らの森林の維持管理に活かすため、林業の技術・知識を習得し、優良材の生産を目指すなど、まさに林業に主眼を置いた取り組みを行っていました。

しかし、構成員の高齢化や林業の停滞等、森林を取り巻く状況が変化するにつれ、地域の森林整備に遅れが出始め、会の活動も低迷するようになりました。

笹子町ではこの状況に危機感を抱き、打開策として、これまで「森林は森林所有者だけのもの」という考え方に基づいていた林研の組織を、「貴重な地域資源である森林を地域住民全体で守っていく」という考えに沿った形に転換する方向で検討を進めました。

具体的には、笹子町の自治会組織である「笹子町政運営委員会」と連携し、町内6地区の区長が林業研究会の理事になることとしました。さらに、植栽から伐採まで何十年もかかる森林相手だけに、会も息の長い取り組みを行う必要があります。そこで、活動に継続性を持たせるために、区長交代後も希望者は理事として林研に残

②子ども達の森林体験活動



地元の小学校の植樹、下草刈りの指導

②子ども達の森林体験活動



矢立の杉森林学習・木工体験

③地域住民の「憩いの場」整備



笹子峠「登山道」の整備

③地域住民の「憩いの場」整備



笹子駅前「直売所」の設置

④息の長い活動にするための林研の仕組みづくり

設立当時の林研の状況

- 設立 昭和52年4月
- 構成員 笹子町内の森林所有者(115名)
- 主なプロジェクト
 - 林業知識と技術の習得
 - 優良材の産地化
 - 後継者の育成

ることができる仕組みを作りました。

組織の改正は平成23年度に行い、平成24年度から新しい体制がスタートしました。平成25年度には区長改選があり、新たな理事が選出されましたが、前区長は全員が希望して林研の理事として残り、会の活動が継承されています。

次に今後の課題ですけれど、活動の継続・拡大についてご説明いたします。「悲しみの森・癒しの森」トレッキングツアー、子ども達の森林体験活動支援、地域住民の「憩いの場」の整備については、研究会が中心となり、笹子町民、大月市、山梨県、林業事業体など多くの関係者を巻き込みながら、活動を継続・拡大していきたいと考えています。

今後は手入れ不足の人工林の解消という最大の課題を解決するため、具体的な行動を起こしたいと考えています。そのためには、県の主催する研修制度等を利用して会員の林業技術の底上げを図り、森林整備に直接携わることの出来る人材を増やして体制を整える必要があります。また、同時に区長が会の理事を務めるという組織の利点を生かし、集約的な間伐の実施に向けて地元の意見をとりまとめる仲介役を担い、まずは区有林を足がかりに間伐をスタートさせたいと考えています。

まとめといたしまして、私達は水源域の森林の重要性と魅力、現在抱える問題点を地域住民はもとより下流域住民にも理解してもらうとともに、地域の森林の守り手は地域住民であるというコンセプトのもと活動を展開しています。今後とも行政機関や林業事業体、下流住民、企業、観光客といった多くの方々の理解と協力を得て活動を継続し、地域の活性化を図るとともに魅力ある地域づくりに貢献していきたいと考えています。

以上で発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

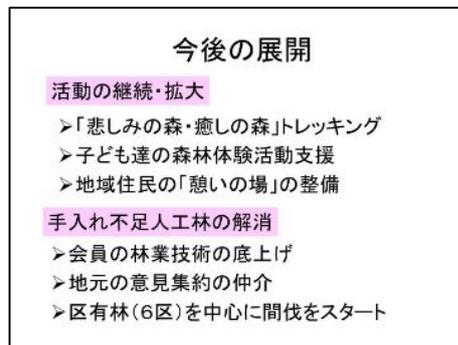
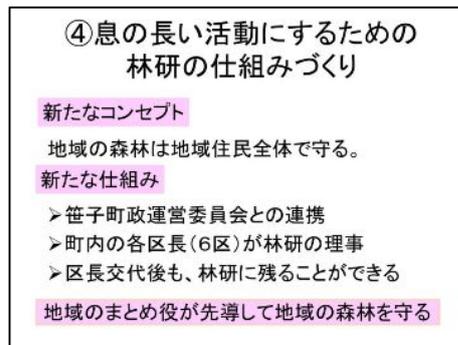
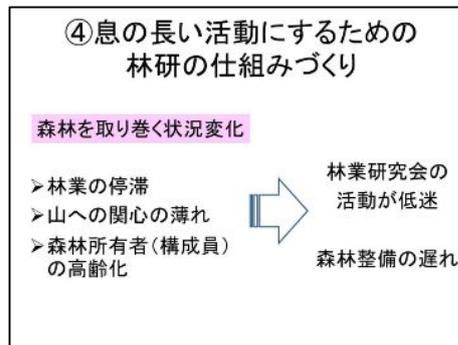
【近藤コーディネーター】

ありがとうございました。それでは続きまして、ファーマーズ ビレッジ ハッピーランドの小俣さんお願い致します。

【パネリスト 小俣 幸一 氏 (ファーマーズ ビレッジ ハッピーランド)】

ただいま紹介に預かりました小俣と申します。人生一路。心の赴くままにということで人生は1回だけしかないので、「どうせなら楽しく生きたいな」ということで、全てのことに「こうしたら楽しい」「ああしたら楽しい」という思い付きで毎日生活しております。一応退職して2年程前から今現在は本当に好きなことだけやって日々を送っています。

川のせせらぎ、野鳥のさえずりで目を覚まし、犬を従え、



25年間毎朝鳥沢・小篠を一周ランニングしております。
25年間ということ、どうやって25年間もやっているのかということをよく言われておりますが、目的意識を「走る」ということではなくて「楽しむ」という風に持つと出来ます。走るというのは体を丈夫にしたいというのもそうなのですが、例えば犬のために、生活のために、それから毎朝会うおじさんと話すためにという風にたくさんの目的を持っていますので、25年間続いております。



小篠というところはよく富士吉田の方の忍野と勘違いされるのですが、昔は陸の孤島で三軒家と呼ばれていました。3軒しかなかったの、そう呼ばれていましたが、今は増えてきていて、私のパラダイスとなっています。本当に自然豊かな大月市であります。これは誰も言われることではありますが、先日の新聞でもどういう形でアンケートを取ったのかは分かりませんが、住んでみたい田舎ということで山梨が1位となっていました。昨年度は長野県でした。これは理由があるのですが、私の持論ではありますが、大月市には非常に東京都から近いです。昔山梨県が日本一になったことがありますけれど、その時は北杜市、清里などの華やかなところが非常に人気になりまして、1位を取ったのでしょけれども、今はそちらに住んでいた方は全員東京にUターンしています。なぜかというやはり高齢化しているからです。高齢化しますと、近所にお店や病院がないと不便ということでおそらく帰られていると思います。ところが大月市はどうでしょうか。高尾から30分圏内ですよ。新宿からも1時間半もあれば十分大月に来られます。そういうところで今山梨県に住んでみたいと言われている1つの要因かもしれません。その中でこんな自然豊かな大月市ではごさいますけれど、今日この会場に来ていらっしゃる方もほとんどが65歳以上とお見受けいたします。それで大月市には耕作地がたくさんありますが、やはり高齢のために耕作できなくなって、荒れ果てている畑や田んぼがたくさんあります。私の周りにもそんな状況なのですが、よく聞く言葉が「何とかしたいよね」「大月市を何とか活性化させないと」ということを言われています。やはり都会の人は非常に山梨県とは魅力のある地域ですし、行ってみたい・住んでみたいという統計も出ています。なので、こんなチャンスはそうないと思いますので、やはりこれから行政の方は大月市のために頑張っていて、どうにか大月市の人口を増やすことに繋がるように頑張りたいと思います。

私事ですが、今から30年程前にちょうどバブルの時代ですが、私はアウトドア的な遊びが大好きで、アメリカに毎年キャンプに行っていました。そこで私が感じたことはアメリカの農業者と日本の農業者は随分違うという印象を受けました。何が違うかというと、アメリカの方は非常に楽しんで農業をしておりました。生活自体を楽しんでいました。日本では農業というのは暗いイメージが非常に強くて、頑張ろう、頑張ろうという思いが前に出ていて、農業を通して、自然と遊ぼうという概念が欠如しています。ですから、私は将来アメリカみたいな生活をしてみたいという夢を常々持っていました。



そんなことで今から20年程前、家を新築するのを機にその夢が始まりました。私も近くに自分の耕作放棄地もありましたので、父親も農業をしておりませんでしたし、私も県外にいるのが長かったのですが、まず畑の整備から始めました。そこで広い畑や田んぼをいかに

管理したら良いかということで、できるだけ効率的に楽しむ農業をしたいと思いました。昔の農業は何でも生産して売ろうという思いが前提に出ていますので、大変だという思いも強くなっているのだと思いますが、私はそれを使って何とか楽しむように始めまして、まずは自分の家の周りを頭の中でデザインしました。いかに効率良く広い畑や田んぼを管理できるかということで、もちろんまだ仕事もしておりまして、毎日車で畑も通るので、小屋が欲しくなったり、カモを飼いたいからここに小屋を建てたくなったりと、だんだん自分のイメージを高めていくことでワクワクした気持ちが毎日ありました。その当時は仕事をしながらランニングの前、朝3時くらいから起きて作業を行っていました。人に言われてやるのではなく、自分がしたいからやっているのだから、そういうことができたのだと思っています。

耕作したところをどういう風に管理したら良いかということですが、1番の問題は夏場の草退治だと思います。草刈りがあるのでやはりできるだけ耕作面積を少なくするには上から物で押さえるということが絶対条件となります。ですから小屋を建てて道を作ることによってそこに行く機会が多くなって楽しく管理できるということを私は実践してまいりました。農業をするにあたって1つのこだわりがありまして、できるだけ化学肥料を少なくしたいという思いがありました。しかも昔の農業です。昔おじいさんがやっていた鍬1本で20、30センチくらい掘り込んで耕作するのですが、水源を畑にしようと思ひまして、シャベルで耕作していました。そうすると角質層が表面にありまして、シャベルで大変な思いをして掘って、落ち葉などの堆肥を入れるのですが、ふと1番下の部分に手を当ててみたら、真冬にも関わらずこの土の中の温かさというものに感動しまして、母親の胎内のような温かさでした。これにすごく感動しまして、石ころ1つも落ちていない作業に先祖にも感謝しました。春には芽が出てきますが、これはエネルギーの塊です。このエネルギーが大地の循環になっています。私の野良仕事はやはり循環しています。うちではヤギや鶏なんかいますけれど、全て食べたものや残飯を家畜に与えて、その糞がまた堆肥になっています。あるいは小屋なんかも自然の木の切れ端を燃して灰にします。この灰もまた畑に持って行って肥料になります。ですから昔の農業というのは無駄がありません。ゴミが全く出ない循環が出来ていました。それがいつの間にか化学肥料が出たり、大型の機械が出たりしまして、循環型というものを全て取り去って今現在の農業というものが成り立っていると思います。ただ皆さんどのくらい専業農家の方がいらっしゃいますでしょうか。ほとんどが趣味の世界でやっていると思いますので、どうせやるならこだわりのある自分だけしかできないことをやった方がこんなに楽しいことはない日々思っております。小屋も例えば作業をしておりますと夏は暑いです。暑いと日陰が欲しくなりま

アメリカ中西部
イエローストーン国立公園周辺への
キャンプを通じて・・・

**自然を最大限に生かした
循環型社会**

「いつしかそんな生活をしてみたい！」

夢への挑戦



**自然の暖かさを
自らの手で感じることの大切さ**

**続けるコツは
区切りをつける**



楽しくするには効率的に！



**廃材を使った建物
全部手作りです！**

すので、そこに小屋を建てて日陰を自分で作っていました。そうすると行く楽しみが出てきます。それで畑を真四角に区画を区切っております。1人で作業をする時に「今日は1つの区画をやろう」「明日は別の区画をやろう」ということで1つの区切りみたいな形で非常に作業をしていて楽しくなります。ですからこだわりの農業ということで私はやっております。いつの間にか小屋も20戸くらいあります。だいたい1つの畑に3つか4つの小屋が建っています。まず休憩小屋、農機具小屋、その他お風呂も作りました。お風呂の水は昔三軒家には湧水を使って水を引いていたのでそれを使わない手はないと思ひまして、湧水を引いて噴水上にしております。全部自分の手作りで作っています。部材がない時は土を壁にしたりして、考えながらいろいろやっています。

あとはイベントを年間やっています。どうせやるならみんなで一緒にやった方が楽しい。あるいはみんなでご飯を食べた方が楽しいという思いでいろいろなイベントをやっています。春は春山菜を食べる会。山菜というのは地の物ですからこれほど栄養価の高いものはありません。野菜というのはある程度人間の手を加えたものであります。ところが山野草は何もしなくても毎年生えてきます。あのエネルギーというのはものすごいものがあります。ですから私は野草を取ってみんなで食べようということをやっています。そうすると必ず詳しい方が仲間に出てきますので、そこから発展がありまして、食べる事は1番楽しいです。あとはお田植え祭りやっています。みんなで田植えをすると人がたくさん集まります。本当に自然に増えてきまして、普段の作業で辛いこともありますが、たくさんの方が来ると楽しいです。1人でトラクターを1日操作しているより、10人20人でやった方が楽しいです。あるいはお昼のご飯もそうです。みんなで採ってきたものをみんなで料理して食べるということがとても楽しいです。これほど贅沢で栄養価の高いものはないと私は思います。それから秋の収穫祭もやっています。これは10月お米の収穫に刈り入れと共にやっています。これも非常に楽しいイベントです。次は年の瀬の餅つき大会です。これもいろいろ皆さん持ってきてやっています。先日もやったのですが、50人くらい来てしまいまして、想定より多く来て下さったので戸惑いもありました。

最期にハッピーランドとはということで、全ての地上の生き物がハッピーでありますようにという意味で名付けています。私の名前が「幸一」で1番幸せと書きます。週末は東京でライブをやっていますが、私は東京では「ハッピーさん」と呼ばれてみんなに愛されております。ですからこういうことをやっていますので、行ってみたいと思う人はぜひ来てください。全くお金がかかっていませんから、廃材を使っていかに輝かせるかということがよく分かります。興味のある方はお待ちしております。一緒に遊びましょう、楽しみましょう。以上で発表を終わります。ありがとうございました。



【近藤コーディネーター】

またあとで足りないところは補足をお願い致します。それでは続いて織物教室の清水さん
お願い致します。

【パネリスト 清水 壽子 氏 (放課後子ども教室 織物教室)】

みなさん、こんにちは。織物教室についてお話させていただきます。

私達は2003年、当時学校週休2日制となる土曜日の子ども達の受け入れとして、大月市の地場産業である「織物」を子ども達に伝え、合わせて大人も織物を勉強しながら、子ども達に指導していきましょと、大月織物協同組合連合会のご協力により、大月織物会館で「織物体験教室」を開催いたしました。

当初、織機は地元産間伐材等を使ってという希望だったのですが、製作の目途が立たず、富士吉田の方の考案した「かんたん足踏み型手織機」という畳半畳ほどの小さい木製の小さな平織機14台と未亡人会の方々が一緒にやりましょと購入した1台と合わせて15台に経糸を作るための整経台1台で始まったのですが、整経台はまだ届かず、長テーブルの上にもう1台の長テーブルを逆さに乗せて、テーブルの脚を使って2～3メートルの長さの経糸を作り、織機に取り付けていました。

写真にあるのが整経台です。整経台が届いてからは、出来るだけ長い経糸をと、7メートルくらいの長さで取り付けたのですが、寒い時期だったためか、糸が絡んで箒(おさ)にスムーズに通らず、途中でそんな事とは知らずに工房に入ってきたメンバーまで巻き込んで、経糸を引っ張る人、巻く人と37～38センチメートルの並巾の経糸を取り付けるのに、5、6人がかりで暗くなるまで大騒動でした。また、糸を箒に通す時も、抜く人よりは糸を順番に出すの方が難しく、コツをつかむまでが少し大変な思いをしました。今丸印が付いているところが箒です。その後、箒目の違う織機6台と、子ども達も経糸作りを覚えるようにと整経台を2台増やして現在に至っております。

経糸の綾に通す綾竹は、近くの山から鈴竹を切って使い、それぞれが家にある物を持って来たりして、その他の必要な物は家にある物で間に合わせるようにとその度に大勢の人の力を感じます。

糸は織元さんの使わない残り糸をいただいたり、廃業した工場の糸や、また都留市の方から捨てるならと軽トラックで運んでくださいました。使われていなかった糸は虫が喰ったり、劣化して切れやすい糸もありましたが、糸を繫



大月市放課後子ども教室
織物教室
清水 壽子

かんたん足踏み型織機



整経台



箒(おさ)



当初は使わなくなった糸を
他の方々からゆずっていただきました

ぎながら、それらの糸を数本ずつ合わせて経糸にしたり横糸にしました。そんな私達に織物協同組合さんが中古の糸撚機をリースで借りてくださり、手で玉に巻いていた糸をコーンに巻いて、より沢山の糸を巻くことができるようになりました。

そうした糸を子ども達はあの糸、この糸と自分で選んで、最初はコースター等の小さいものから順にランチョンマット、マフラーと一生懸命取り組んでくれました。写真は子ども達の作品です。

夏休み教室では、友達と一緒に毎日通って「2メートル織れた!」「4メートル織れた!」と布を広げて見せ合う姿に子ども達の喜びを感じます。また、小学1年生の子がお姉ちゃんが経糸を作る姿に刺激され、「私も経糸を作りたい!」と挑戦する姿に子ども達の意欲と力強さを感じます。時には大人の想像を覆すような色使いや糸使いに驚かされ、習得したことはほぼ忘れず、小さい子や分からない子には指示しなくても教え合ったり、みんなで面倒を見てあげたり大人が教えられる事も多く、また時には誰からともなく歌を歌いだし、みんなで大合唱しながら織物をする姿に姑が生前「唄は仕事になる。話は邪魔になるという機織唄があった」という言葉を実感しながら子ども達の楽しさを感じています。

そんな子ども達も集中力が途切れると、広い部屋の中を飛び回ったり、ゲームを始めたり、時には姉妹ケンカも始まって大騒ぎになることもあります。注意すると織機に戻って集中します。

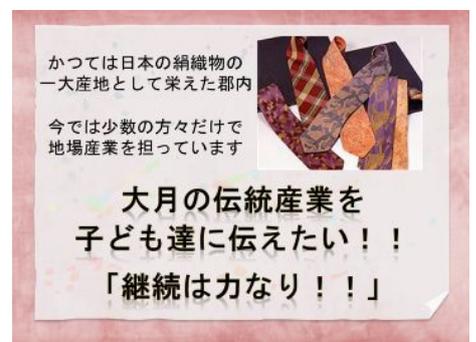
織機に向って一心に布を織る子どもに「家でもこのくらい集中してくれるといいんだけど」とか「こんなに集中している姿は見たことない」「家でゲームばかりしているよりも、こういう場所で何か一生懸命してくれる方がありがたい」という親の言葉にこの教室の意義を感じております。

郡内織は徐福（じょふく）伝説で有名な中国の徐福が日本に渡って伝えた織物が起源であるとも、江戸時代に谷村城の城主となった秋元但馬守（あきもとたじまのかみ）が寒冷地である郡内地方の産業として奨励したのが起源であるとも言われています。

かつては、富士吉田市から上野原市までの郡内地方は、郡内織、甲斐絹によって日本の絹織物の一大産地として栄えた地域でしたが、今は少数の方達だけで地場産業を担っています。

そんな現状に大月市の伝統産業を是非とも子ども達に伝えていきたい!!そんな思いで「継続は力なり!」と私達も励まし、見守って下さる方々に支えられて活動を続けております。

活動は先の第2第4土曜日の子ども教室以外に市内の小中学校の体験教室、学童保育への



出張体験、これは学童保育所の方から依頼があれば、数台の織機を学童の教室に運んで体験をします。男の子も女の子も始めは戸惑いながらも、何回か経験している子が指導役を買ってくれ、「右足踏んで、右から板杼（いたひ）を入れて、次、左足を踏んで、左から入れてー」と先輩振りを発揮して、私達を助けてくれます。先生方からは「大勢の子どもを連れて織物教室に行くことできないので助かります」との言葉にもっとたくさんの学童の子ども達にも体験してほしいと思っております。

また、時には各地域の育成会の子ども達が夏休みの行事として体験する時もあり、20人以上の人数になる時は1台の織機を2人で交代で使ったり、慣れない手織に糸が絡んでトラブル続きで私達はあちらの子、こちらの子とてんでこ舞ですが、織り上げた子ども達が作品を手に「上手に出来た！」「俺、天才！」「綺麗な色に織れてうれしかった！」などと感想を述べて、「ありがとうございました！」と帰っていく姿にほっとしながらも子ども達とのやり取りに楽しさや喜びを感じます。

ここ数年は中学生が学校のクラブや職業体験として織物教室に来ます。大半の生徒が大月市が織物の町であった事を知らず、数人の子が祖父や祖母がやっていたのを覚えている程度です。そんな生徒達がやはり最初は、右、左と戸惑いながらも次第に横糸の扱いに慣れて集中し、2時間ほどの間にコースターやランチョンマットを織り上げ、男子でもしっかり綺麗に織る子等々中々の出来栄えに感心します。中には小学生の時に織物教室に来たことがあるという生徒が幾人かいて、「将来はアパレル関係の仕事がしたい」という言葉が楽しみです。

短大の学生達の活動との交流で、学生達が体験に来たり、学園祭に織機を運んで、子ども達を連れていき、一緒に体験する事もありました。学生達の前で子ども達が体験してくれるか心配でしたが、1人の子が織機に座ると他の子達も変わる変わる織物をしてくれ、その様子を見た学生達も変わる変わる織物体験を楽しんでくれました。

毎年の事ですが、3月には大月市放課後子どもプランの各教室の合同発表会が、子ども達が1年間学んだ事を発表しようという主旨で市民会館で開催されます。

私達「織物教室」では子ども達が織った布でマフラー、帽子、バッグ、ベスト等にして「ファッションショー」として発表するのですが、1年間を通しての体験者は述べ人数にすると200人から多い時では400人以上にもなるのですが、不特定の子どもの達の受け入れなので、中々人数が揃いません。「織るのはいいけど、発表会に出るのは恥ずかしいので絶対嫌！」と拒否する子やインフルエンザにかかって熱を出す子、年度末になると他の習い事などと重なる子等々。そんな中児童のお父さんが参加してくださったり、短大生との交流で体験に来た学生や都留



【活動日】
毎月 第2・第4土曜日
午前10時～午後3時

【場所】
大月織物会館3階

**依頼があれば
出張もします！**



出張織物体験教室



中学生や大月短大生の体験教室

**子ども達とのやり取りに
楽しさや喜びを感じます**

大月市子ども活動合同発表会



今年もやります！！

【日時】
3月15日(日)
午後1時30分～

【場所】
大月市民会館 大ホール

ご来場お待ちしております

文大の中国からの交換留学生が、帰国寸前の送別会を終えた足で市民会館に駆け付けてくれて、自分達が織ったマフラーを身につけ、中国語で「赤とんぼ」の歌を会場の観客と一緒に歌ってくれた事もありました。また、学童クラブの子ども達がモデルとして参加してくれたり、大勢の方々に協力していただきながら、いつか大人も、若者も、子どもも一緒になって自分の織物でファッションショーが開けたらと夢を抱いております。

今、私達の平均年齢は60歳。発足当初は50代半ばから70代始めの方々が参加してくださり、「3年間迷ってここに来た」という方もありました。一步踏み出すという事はとても勇気のいる事だと思いますが、その一步を踏み出すことで自分の世界が変わる。それが私の実感です。

全く知らない人と知り合い、最初は織物を知らない人もたくさんおり、少しの体験と共に教え合ったり学んだり、いろいろな事を教えてもらいました。この年になっても知らない事がいっぱいある事に気づかされます。もちろん、子ども達に教えられる事もたくさんあって、その都度ワクワク、ハラハラ、ドキドキです。

織物は絹や木綿、ウールの糸、古い衣類を裂いて織る裂織、植物や様々な物を織りこんだりと、多様な織が楽しめます。高齢になり、1人で外出できなくなってしまうと、この小さな織機で織物が楽しめるのではと思っております。

織物教室を開催するに当たり、メンバーはもとより多くの方々のお力添えや繋がりに感謝しております。そして、当時は現役で家業の歯車として働いてこられた方々の参加はもちろん、そういう方々の体験は貴重な物だと思います。また、織物に興味があれば、何も分からなくても教え合い、1人でも多くの方々に参加していただき、この地場産業の織物を子ども達と共に紡ぎ、継いでいってくださる方を希望しております。郡内織は家内工業で1軒1軒で織られた品物を集めて発展しました。私達1人1人の小さな力を集めて大月市の産業がもう1度復活出来る事を願っております。以上です。ありがとうございました。



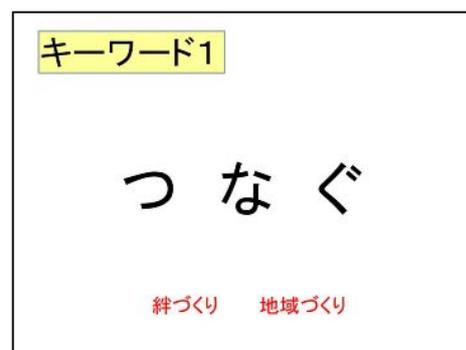
■ 第2部 ディスカッション、会場との対話

【近藤コーディネーター】

3名のパネリストの皆様本当にありがとうございました。時間の関係で急がしてしまい申し訳ありませんでした。

これから第2部ということで、まずはこのステージの方で話し合いをしていきたいと思っております。最初に提起させていただきましたキーワードの1番目である「つなぐ」ということについて考えていきたいと思っております。フロアの皆さんもぜひ自分もどう繋がれるか頭の中で考えながらお聞きいただきたいと思っております。

それではどうでしょうか。小林さんの方から3名の方々と繋がりという部分ではどうでしょうか。「つなぐ」という点でまずご意見を伺えればと思います。



【パネリスト 小林 頼正 氏】

前に清水さんの方から織機について、笹子の林研で織機を作れないかというお話をいただきまして、先にお伺いさせていただきまして、見たのですが、織機は非常に簡単に出来ているのですが、この簡単さが反って難しいのかなと思いました。しかし実物を1台お借りすることができれば、私共の会員でも器用な方もたくさんいますので、みんなで力を合わせればなんとかできるかなというところです。そうすると今使っているものよりもかなり安く提供できるのではないかと考えています。ぜひその辺をまた終わりましたら検討させていただければと思っています。



【近藤コーディネーター】

今「つなぐ」という視点ではそれぞれの活動が今の発表の中でも繋がりが持てるということですが、ハッピーランドの小俣さんはいかがでしょう。

【パネリスト 小俣 幸一 氏】

うちでは羊を飼ってまして、雑草取りに使っているのですが、あまり働いてくれません。でも羊は毛がどんどん増えてまして、1年に1度毛を刈らなければなりません。先日いろんなルートを使って私の友達が刈る人を紹介してくれました。その方は上九一色村にお住まいの方でちょうどお出かけの帰り際にうちに寄っていただいて、ものの15分くらいで刈っていただきました。刈った毛を今洗って紡いでセーターにする予定でやっているところです。これは私がやるのではなくて、そういうことに興味のある方が来てやってくれます。そういう人の方が真剣にやってくださって、繋がりが出てきて友達が増えて楽しいです。ですので、何でも興味を持ってステップアップすることでどんどん繋がりが出てきます。これはやはり自分から入っていかないと無理です。

【近藤コーディネーター】

今羊毛ということができましたけれど、これもまた織物に繋がるとは思いますが、清水さんはいかがでしょう。

【パネリスト 清水 壽子 氏】

私達も糸はいろんな糸で織っていますので、小俣さんにもぜひ体験に来ていただきたいと思っています。

【近藤コーディネーター】

ハッピーランドは体験重視型ですね。いろんな体験ができるということですので、織物教室の機械を持ち運べれば体験できると思います。先ほど木材というお話もありましたが、小俣さんはいかがでしょう。

【パネリスト 小俣 幸一 氏】

木材も繋がる方法があります。木材でネームプレートを作ります。私はハッピーランドに

人を呼ぶ時は名前の分からない人も来ますので、ネームプレートを作るのに木も厳選します。杉ではダメでヒノキの木を綺麗にカットしてそれで自分で名前を書いてもらうということをする、やはり名前が覚えやすいということは非常に経験いたしました。そうしましたら、それを見て他の人が真似をしていきましたけれど、そういうのも繋がりではないかと思いました。

【近藤コーディネーター】

そうすると今木材加工ということで笹子の林業研究会にお聞きしたいのですが、今小俣さんからネームプレートの木材や板を用意できないかということですが、その辺はいかがでしょう。

【パネリスト 小林 頼正 氏】

ネームプレートはまだ作ったことはありませんけれど、コースターや箸や大きなテーブルや椅子は作ったことがあります。私たちも県に行くとき県の林業関係者はネームプレートは全て木工で作ってあるものをしていました。またその辺にも挑戦したいという風に思います。

【近藤コーディネーター】

どうでしょう。先ほど木製製品の加工品を作っていたらという話でしたが、例えば清水さん達がお作りになる布製品との繋がりはいかがでしょう。

【パネリスト 小林 頼正 氏】

私達の作るものは大したものでもありませんし、ただチェーンソーを使って丸太を縦切りにして、椅子やテーブルを作っていますが、ただガサツな男が作るものなので、ぜひ清水さん達や子ども達も作ったテーブルクロスみたいなものを作っていて、木に合っているテーブルが引き立つようなものを作っていたらいいなとも考えていきたいなと思っています。

【近藤コーディネーター】

清水さん今のお話をお聞きになった中でそういう製品との連携というものは可能でしょうか。どうでしょうか。実際に布を作るというのはいかがでしょう。

【パネリスト 清水 壽子 氏】

子ども達が作るものはすごくかわいいですし、大人が自分の色で織ってもオンリーワンになりますので、ぜひ提供させていただきたいと思います。

【近藤コーディネーター】

今製品を作るということも出てきていますが、そういう製品という点では林業研究会の方ではいかがでしょうか。何かこういう風なものを作りたいというお考えはありますか。

【パネリスト 小林 頼正 氏】

廃校になった中学校をお借りすることができまして、そこに機械も入れて木工製品を作っ

ていこうということが決まっていますので、いろんな考え方ができると思いますが、それぞれが工夫した中でいろんな物を作っていきたいと思います。例えば先日孫がちょうど織物教室に入りたいということで孫を連れて織物教室に行ったのですが、先生方に教わって編んできました。実に素晴らしく綺麗なものでしたから、これはいろんな物の上に置いたりして使えるなと思いましたが、実はお兄ちゃんの方が妹が織ってきた物をすぐにもらって、彼女にプレゼントするという事がありました。とても素晴らしい物でしたので、いろんな物に使えるということを感じました。

【近藤コーディネーター】

今作った物がプレゼントになるというさらに発展的なお話でしたが、そういう中で林業研究会の中でも癒しの森悲しみの森のツアーをされていて多くの方を呼んでいます、そういう中でもう1つ小俣さんはコンサートをされているという事でツアーとの連携というのはいかがでしょう。先ほどの発表では時間の関係で途中で切ってしまいましたが、本当はもっと言いたいことがあったと思いますが、どうでしょうか。

【パネリスト 小俣 幸一 氏】

癒しの森コンサートというのはあちこちでやっています、村興しの1つだと思います。ただこれも継続していかないとダメだと思います。1回限りではやはり中々定着しないです。ただこだわりを持って、お客さんが来ようと来まいと毎年続けるという事が非常に大事になってきます。うちのコンサートなんかも最初は私は芝生を引いて、みんな寝転がって私達のバンドの曲を聞いて欲しいなと思って始めたのですが、それがだんだん大きくなってきてステージまで作るようになりました。ステージを作るのはお金がかかりますが、仲間がみんな勝手に作ります。口を出すと金を出さないといけませんから私は一切口を出しません。そういうことまで任せてしまえば、1人歩きして事が進んでいきますので、私は口を出しませんけれど、そういう繋がりが発生しています。



【近藤コーディネーター】

今森林コンサートみたいな話がありましたけれど、林業研究会の方ではツアーの中に音楽を取り入れるというのはいかがでしょう。そういう計画はありますか。

【パネリスト 小林 頼正 氏】

大人のツアーをやったことがあります、その中でヨガ教室をやったことがあります。笹子の癒しの森にはトイレもお風呂もないので、そういう点も考えていかなければならないのですが、音楽というやはり建物の中で迫力あるものをイメージするのですが、実際にそういうことをツアーの中に取り入れるということはこれから考えていきたいと思っています。

【近藤コーディネーター】

今3名の話の話を伺っていると、出てきただけでもたくさんありますが、実は単体の活動でもだんだん繋がっていきます。先ほど物を作るという話の中で製品を販売するということも

1つの手立てだと思っておりますが、織物教室については販売にも繋がっているというお話を伺ったことがあります、その点はいかがでしょう。

【パネリスト 清水 壽子 氏】

猿橋のはねぎさんの方からマフラーやストールみたいなものを販売させてほしいというお話をいただいて、販売させていただいております。あとは駅前の観光協会さんの方にコースターやスマホケースなどの小さいものを販売させていただいております。

【近藤コーディネーター】

そうなんですね。今はねぎさんというお話ができましたが、昨年度にパネリストとして出場していただいた方なんですが、こうやってみるとそういった方とも繋がっているということですね。林業研究会の方では販売という点ではいかがでしょう。

【パネリスト 小林 頼正 氏】

先ほどもお話させていただいたのですが、駅前に直売所を作りまして、そこでとりあえず野菜とか自分達が作ったものを売る計画があります。そこへ私共の木工製品の販売もできるような形で進めていきたいという風に話をしております。

【近藤コーディネーター】

小侯さんのハッピーランドの方ではたくさんものを作るのではなく、自分の中で無理なく継続していくというのが先ほどのお話だったと思いますが、ハッピーランドでは皆さんの作られたものを紹介したりすることは考えられますか。例えば織機で作ったものであったり、木材で作ったものを紹介していただくことは可能でしょうか。

【パネリスト 小侯 幸一 氏】

今まで10月から11月に収穫祭をやっておりまして、バンドの数で20いくつか出場して朝から晩まで演奏することを毎年やっているのですが、そういう時にぜひ地のもや手作りのものを販売したいということは私も思っていました、中々そこまで出来なかったです。ちょっとした木工製品や農協さんに出している野菜なんかを販売したことがありますが。大月にもおつけ団子の会というものがありますので、やるとするならおつけ団子に来てもらいたい。それから私のところでは人が多すぎて私の方では対応できなくなっているのが現状です。だいたい250人くらいの食事を作るということはとても大変なことです。家内もこれが最後だよと毎年言っていますけれど、なんだかんだ続けています。50人くらいなら対応できるのですが、食事代の2000円という対価をいただいておりますので、できるだけその分くらいはお返ししなければいけないという思いでやりますが、人数が読めないの由来からはもうちょっと違う形で地域のおつけ団子の会であったり、そういう方を呼んでそこで販売していただいて、うちでは場所を提供して皆さんに楽しいハッピーランドを提供するという事に集中すればいいかなと思います、ただ東京には音楽をやりたいという人がたくさんいます。例えば癒しの森で音楽家を呼ぶときにお金がかかるのではないかと心配があると思います。1人1万円ずつで30人いるから30万かかるということもあると思いますが、本当にアマチュアですとずっとやってきて、自分が発表する場を欲している方はたくさんいます。趣味でやっていますので、どこにでも行きます。私も趣味の延長でやっ

ていますので、東京にも毎週のように行きますが、癒しの森なんかはクラシックの三重奏や四重奏をやっている方もいると思いますが、私はジャンルが違いますので、ちょっと分かりませんが、そういうバイオリンなどを入れた癒しの音楽はぴったりだと思います。

【近藤コーディネーター】

今小俣さんの方からおつけ団子の会のお話がありましたが、この団体とも繋がりが出て来そうです。

さて、その中で今「つなぐ」という点で皆さんからお話を伺いましたが、こうやってみるとどんどん繋がっていきます。またあとでフロアとも繋げていきたいと思います。

次の継続をさせるということで無理のない取組ということですが、実をいうと先ほどの発表でも例えば林業研究会では「息の長い活動」という言葉を使っていますし、織物教室では「継続は力なり」という言葉を使っています。そういう意味で継続のことに意識して準備していただいているわけですが、時間の関係もありますので、1人ずつ続けるためのご努力というものを伺いたしたいと思います。小林さんからお願い致します。

キーワード2

できること

できるとき

できるだけ

無理をしない

続けられる

【パネリスト 小林 頼正 氏】

林業では簡単にできるということはほとんどなくて、間伐や枝打ちをするにも常に危険が伴います。そういうことで技術力を上げなければいけないということで、県の方から指導者を呼んで研修をしております。例えば刈払機やチェーンソーの使い方の指導や資格を取らせていただいて、各個人の技術力を高めるということに取り組んでおります。そういう点で私達は指導者を育てなければいけませんし、そういうことが大変重要な事になってきていますが、みんな仲間ですので、いろいろ知恵を出し合ってやっていこうという思いです。

【近藤コーディネーター】

発表の中に区長さんに理事として残ってもらおうというように係の方に継続していただく取組をされておりました、これも大切な事かなと思います。続きまして、小俣さんいかがでしょう。

【パネリスト 小俣 幸一 氏】

無理のないということで1日1回やるのが朝のランニングでして、先ほどもお話ししましたが、25年続けております。やっていることで続けるということをお話しますと、毎日ランニングしながらやるのが2つあります。毎日「いち、に！いち、に！」と掛け声を言っております。昔の青春ドラマでは必ず「いち、に！いち、に！」という掛け声をかけてみんなでグラウンドを走っております、実に素晴らしいことだと思いますが、いつの間にか最近では聞くこともなくなりました。私は犬を連れておまして、犬が時々嫌がりますが、「いち、に！いち、に！」と言うと犬がついてくるようになったので、これはいい方法だということで私は毎日続けております。そしてもう1つが朝日の当たる素晴らしい場所がありまして、そこで太陽に向かって大の字になって自分の全身を当てて50秒数えます。そうすると太陽が自分に注いでそれがエネルギーになって地に返って循環します。これをやってる人はあま

りいないと思いますが、本当に素晴らしいです。これは無料で出来ますから、ぜひ明日からやってみてください。どうせするなら良いことをどんどん取り入れて、お金のかからないことなので、全て循環していますから、そういうことを皆さんやってみましょう。やると馬鹿らしいけれど面白いです。そうすれば続けられると私は思います。

【近藤コーディネーター】

日常の中の継続のお話でした。特に小俣さんの場合は作ったものを売らないのかということをよく言われるみたいです。そうすると仕事が多くなって続けられないということです。先ほどもありましたが、耕作面積を小さくするということが1つのご提案でした。欲張ると仕事が大変だから続けられなくなるということで継続の1つのポイントかなと思います。続いて織物教室の方ではいかがでしょうか。

【パネリスト 清水 壽子 氏】

林業研究会さんの方は危険が伴うとおっしゃいましたが、織物教室では全然危険が伴わなくて、子どもからお年寄りまで簡単に手織の体験ができますので、小さい子からお年寄りまでみんなで織物を織って大月の基幹産業である織物を絶やさないということを目指して続けていけたらと思っております。

【近藤コーディネーター】

担い手を見ますと指導者が今後課題でありますけれど、今日もフロアの中にも一緒にやってみようという方もいらっしゃると思っておりますので、ご意見を後ほど頂きたいと思っております。

3つ目ですが、1人ひとりの皆さんが活動をしてもらうためにはそれぞれの活動をPRしていかなければならないと思います。そういう意味で本当に少しの時間になってしまいましたが、林業研究会の方から皆さんにお知らせしている方法というものをございますか。

キーワード3

市民一人一人の 生涯学習 社会教育活動

生涯学習・社会教育活動の輪を広げよう

【パネリスト 小林 頼正 氏】

自分達の周知方法というのはツアーの実施等については、市の担当課からいろんなネットワークを用いてもらっておりまして、また自分達の知り合いとか仲間の会社の関係の方々に声をかけて、研修等いろんなことをその都度目標を持って1年間やっていますので、いろんな情報発信は一生懸命やっているつもりです。

【近藤コーディネーター】

次にハッピーランドの方はどうでしょうか。皆さんにお知らせするという輪を広げる取組はいかがのでしょうか。

【パネリスト 小俣 幸一 氏】

輪を広げるには、やはり楽しむことだと思います。興味のある人には来ていただきたいですし、例えば定年退職されて自分の土地には畑がないけれどやってみたいという方はまだ耕

作するところはたくさんありますから来ていただきたいです。私は耕作していない方から畑を借り受けて、私が綺麗に整備して人に貸しています。そうすることで倍の面積を消化できていると思っています。ぜひやってみたいという方はうちに遊びにきてください。

【近藤コーディネーター】

ハッピーランドに足を運んでいただきたいということでした。それでは織物教室の方ではいかがでしょうか。

【パネリスト 清水 壽子 氏】

先ほども申しました通りいろんな方に体験してもらいたいと思いますので、本当に簡単な平織で基本的なことなので、興味のある方は1度足を運んでいただいて、体験していただいて皆さんに楽しさを伝えて頂ければと思います。



【近藤コーディネーター】

実際に無理のないところということで今フロアの皆さん方にも投げかけがございました。そういう意味でまずは「つなぐ」ということ。それから「無理なく継続する」ということ。そして「1人ひとりに関わっていただく」ということで、本当はもっと時間を取ればよかったのですが、お話をさせていただきました。

今度はフロアの皆様からご意見を頂戴できればと思っております。何でも構いません。例えば感想でもいいですし、「一緒にやらせてもらいたい」、「いつどこにいけばよいのか」という質問でも、「こんなことを悩んでいるからアドバイスをください」ということでも結構です。気楽にご意見を頂戴したいと思いますが、いかがでしょうか。今担当がマイクを持ってお話を伺いたいと思いますので、よろしくお願い致します。

【質問者 A】

3人の方の素晴らしいお話を聞かせていただきました。小俣さんにお伺いしたいのですが、耕作をするときに獣害がひどくて困っているのですが、その辺の対策はどうかしていますでしょうか。

【パネリスト 小俣 幸一 氏】

獣害は先日あったばかりです。うちの鶏6羽先日までいたのですが、やられてしまいました。私は最善を尽くして物事をやりたいなと思っていますので、今までも何回も失敗してやられてきました。これはイタチです。とても狭いところから入ってきて、全部の鶏の首に噛り付いて血を吸って帰っていきます。小屋の前に穴を掘って埋めました。そしたら翌日うちの前にキツネが来てそれを全部掘ってみんな持って行ってしまいました。でもこれはやはり自然の摂理だと私は思います。やはりみんな生きているので多少のリスクはしょうがないと思っています。これが生産者であったら大変でしょうけれど、動物であれば笑って済むことだと考えております。

【近藤コーディネーター】

これも小俣さんの言う循環だという事だと思います。その他いかがでしょうか。

【質問者 B】

初狩の小林と申します。パネリストの皆さんご苦労さまです。小林さんから1人ずつ質問をさせていただきます。まずは小林さんにお聞きしたいのですが、癒しの森というのは滝子山の懐ですよね。私もあの辺のことは詳しいので知っているのですが、あそこは素晴らしいところですし、中央線の沿線で滝子山といえば、まず挙げられるのがあの素晴らしい眺めなんです。その滝子山の名前を出さずに癒しの森というだけでは対外的にPRが不足するのではないかと思いますので、今後笹子駅に滝子山の写真を載せるとか、滝子山の麓にそういう施設があるということをしてPRをしていただきたいと思います。続いて小俣さんですが、朝小鳥のさえずりで目を覚ますというお話がありましたけれど、実は私は何年も前から市にお願いしているのですが、山梨県の市町村で市の鳥を定めていないのは大月市だけです。自然が美しいとか、水が綺麗だとか、山が美しいといっても、具体的にPRしていないと思います。大月市には発信力がないです。先日甲府市の病院に行きましたら、患者さんの入口にカワセミの写真がずっと部屋ごとに飾ってありました。カワセミは甲府市の鳥です。都留市ではウグイスなんですけれど、市町村で10番目くらいに決まりましたが大月市だけありません。こんなに豊かな自然で鳥の数も相当いると思いますけれど、その1つをとっても子ども達が小鳥に関する関心を持ってくれると思いますので、その辺をPRの中に入れて頂きたいと思いました。最後に清水さんですが、私もかつては機織りの関係に勤めていたこともありましたが、やはりその当時無謀な労働状況の下で働いていたことが原因で廃業に繋がっていたのだと思います。例えば群馬で製糸工場が世界遺産になったこともありましたが、あそこは当時もちゃんと労働時間を守って、たしかな製品を作っていました。ところがこういう地方だと経糸に糊をかけて織ったり、そして朝暗いうちから夜遅くなるまで織っているということもありましたので、そのツケが最終的に廃業ということできたのではないかと思います。何かを継続的にするという事は衰退した原因も探っていくことも必要だと思います。

【近藤コーディネーター】

ありがとうございました。時間もないのでそれぞれのお答えを控えさせていただきますが、ただ今歴史的なことも含めてご示唆いただきました。また市の方にもアドバイスがありましたので、その辺を繋げたいと思います。

【質問者 C】

大月に住んでおります小俣と申します。本日はコーディネーターの近藤先生、誠にありがとうございました。パネリストの3名も素晴らしい発表をありがとうございました。私は最初にキーワードの「つなぐ」という言葉が何をどうつなぐのかと聞いておりました。私なりに「つなぐ」というものを考えてみました。「つなぐ」の「つ」は「つぶやきましょう1人1人で」。「な」はつぶやいたら発信しますよね。それを聞いた1人1人が「なかよくしましょう」ということ。「ぐ」は「グッと手を取り合って肩を組んで進みませんか」という事だと思いました。今日の3名の発表は繋がっていたと思います。コーディネーターのお話を繰り返すことはしませんが、全て繋がっていたと思います。昨年度のはねぎの方もお話に入っておりましたし、大月市で一生懸命頑張っておりますおつけ団子についても触れて頂きました。そういった中



で今日のこの会の主催者である中村順一郎教育委員長からのお話もありましたが、「地域の人の繋がりは年代を超えて」という言葉がお話の中にありました。また「地域の輪」ということがございましたが、私はその「わ」を2つに捉えました。車輪の「輪」と平和の「和」。この2つの「わ」を取って地域の輪が、今日のパネリストの輪がうまく転がって行って、人々が繋がっていただけらいいと思いました。そういった中で市長さんからのお話の中で「地域力」ということで、大月の良さ、自然があるということ、人という素晴らしい財産があるということもありました。つい最近新聞紙上で知ったのですが、相模川水域の上流域、中流域、下流域の12市町村の皆さんで環境を守る会という会を立ち上げたということを知りました。これも全て「つなぐ」というところに繋がってきているような気がします。そういう意味で今日ここにお集まりの皆さんもパネリストの皆さんのお話で上手に繋がっていったと思います。私は今1つの組織の仲間に入れて頂きまして、ネバネバした形で一生懸命自分なりに粘っこさを発揮しながら活動しているわけですが、大月大豆あるいは星野家さんの納豆もぜひ小俣さんのところでも、小林さんのところでも売っていただければいかがかなと思ひまして、最後までめますと「つなぐ」ということは「できることは、できるときに、できるだけ」。みんなで1人1人で手を繋ぎ合ってやっていきませんか。そういうことが大月市がより一層発展していくことに繋がるのかなと思います。皆さん手を取り合って一歩踏み出してみませんかという感想と自分の思いを込めまして、意見させていただきました。

【近藤コーディネーター】

大変貴重なご意見をありがとうございました。あと1名ほどご意見をいただきまして終わりたいと思います。

【質問者D】

笹子町林業研究会の小林さんにお伺いしたいのですが、今の発表を聞かせていただいて、森林に焦点を当てて地域づくりや子どもさんの教育などにかなり広範囲にやっています。こういう活動というのはあまり大月市内や県内でもそんなに多くやっていますところはないと思います。それを今後も継続していくことが大事だということが皆さんの意見にもありまして、もともと森林所有者の会であったのが、小林さん達が跡を継いで、区長さんが林研の理事になっていらっしゃるということですが、区長さん達は誰でもこういうことを出来るわけではないと思います。今後前向きな活動を続けていくために後継者づくりで何か取り組まれていることがあれば教えて頂きたいと思います。

【パネリスト 小林 頼正 氏】

後継者作りは自分達だけでは中々できませんので、県の森林総合研究所さんのお力を借りていろんな資格を取っていきこうと思っています。それと学校との繋がりとということが自分達の林研もかなり必要でありまして、自分達としても子ども達と繋がっていくことが自分達の指導力と技術力のアップにも繋がります。子ども達と一緒にキノコの植菌も先日やりまして、6年生は上手に出来るのですが、5年生達は電動ドリルで体育館の板に穴を空けてシイタケの植菌をするという間違いもしていましたが、子ども達に経験してもらっています。いろんなことをやっていく中でこれは県やいろんなところをお願いしている中で、自分達の目的の1つに笹子の環境整備をという1つの大きなテーマがあります。そのテーマをやっていくには自分達だけではできませんので、ぜひ県の力をお借りしてできたらと思っています。そ

うして仕事をしながら自分達の技術面を伸ばしていくことがいろんな方向へ繋がっていくことになると思います。13人しかいませんけれど、今は本当に楽しく13人の仲間といろんなことに取り組んでいる次第です。

【近藤コーディネーター】

ありがとうございました。本来ですともう少しお話をお伺いしたいと思っておりましたが、実際に織物教室に参加された方のご意見やハッピーランドに行ったことのある方のご意見や笹子のツアーに参加していい思いをしたという方のご意見もお伺いしたいと思っておりましたが、お時間になってしまいました。終わりにそれぞれのパネリストの皆さんに1分程度でまとめて頂いて今日の感想なり、最後フロアの皆さんに聞いてほしいことなど小林さんの方からお願い致します。

【パネリスト 小林 頼正 氏】

生涯学習推進大会に参加させていただいたこと自体が私としても大きな収穫です。こうやって皆さんと一緒にいろんなことを学び合えてとても身になりました。自分には13人の素晴らしい仲間がいます。この13人も今日も何人か来てくれていますが、この13人の思っていることが発表できたかなと思います。今後も大月市の発展のため、笹子町の活性化のために自分達のできることは努力していきたいと思います。今後とも皆さんのお力をお借りできたらと思います。今日は本当にありがとうございました。

【近藤コーディネーター】

続いて小俣さんお願い致します。

【パネリスト 小俣 幸一 氏】

何回も言いますが、人生は1度きりです。やはり死ぬ時はガッツポーズで死ぬような人生を送りたいです。最終的には自己満足だと思います。自分がどう一生を生きたかということは最大の証であって、これが1番大事なことだと思います。以上です。

【近藤コーディネーター】

では最後に清水さんお願い致します。

【パネリスト 清水 壽子 氏】

今日はこういう会に参加させていただきまして、本当にありがとうございました。私達の活動は本当に小さな活動ですが、お子さんをお預かりするということがどんなに大切なことかということを身を持って感じております。それを大人の人達がまた一緒になって見守っていただけると思っております。今日は本当にありがとうございました。

【近藤コーディネーター】

もう1度3人のパネリストに拍手をお願い致します。ありがとうございました。

ここで3名のパネリストの発表を通して、生涯学習の在り方について考えてみました。パネリストの皆様、大変ありがとうございました。またフロアの皆様もご発言いただきまして大変感謝申し上げます。

本日のシンポジウムもあっという間に過ぎたわけですが、けれどもいかがでしたでしょうか。始めに申し上げました通りこの会場をお出になるとき、自分もなんかやってみたいな、挑戦してみたいなという思いをお持ちになってこの会場をお出になられれば、本日のシンポジウムの務めを果たせられたかなと思います。

最後にある詩をご紹介させていただき、このシンポジウムを閉じたいと思います。大阪の産経新聞にある朝の詩というものに出た詩でありまして、大阪の子どもに対して鳴沢村のおじさんが「富士山をお土産にあげるから富士山を包むために大きい新聞紙を持ってこい」と話したところ、大阪の子どもは大阪の産経新聞に「富士山をお土産にもらってくるから日本一大きい新聞紙を作ってくれ」とお願いする詩です。この詩が出たことをもとに鳴沢村文化協会は富士山の詩という冊子を作りました。この詩がその冊子を作るきっかけになったものであると説明があります。私はいろんなところでこれを最後に発表させていただいております。私は子ども達にこんな夢のあることが言えるオッチャンになりたいなと思っております。そして、こんな夢のある詩が書ける子ども達を育てたいなと思っております。大月市の未来は子ども達にかかっておりますので、こんな素晴らしい子ども達を育ててほしいと思います。

長時間お付き合いいただきまして誠にありがとうございました。以上をもちましてシンポジウムを終了させていただきます。



第53回大月市生涯学習推進大会

〈 アンケート用紙 〉

お忙しいところ、ご参加くださいますありがとうございます。
今後の参考とさせていただきますので、以下の問いにお答え下さい。

◎ あなたご自身について教えてください。 【該当するものに○印】

男性・女性 (10歳代～20歳代 30歳代～40歳代 50歳代～60歳代 70歳以上)

1) ご職業はどれに当てはまりますか？

ア. 自営業 イ. 勤め(全日) ウ. 勤め(パート・臨時) エ. 学生
オ. 専業主婦 カ. 無職 キ. その他 ()

2) 今回の大会を何で知りましたか？

ア. チラシ イ. 知人・友人からの案内 ウ. 市広報 エ. 学校からの案内
オ. 公民館からの案内 カ. 所属団体からの案内 キ. その他 ()

I 大会に参加した動機について教えてください。

- ① 発表内容に関心があるから
- ② 取り組んでいる課題に直接的に役立ちそうだから
- ③ 仕事や地域活動の参考になる情報が得られそうだから
- ④ 生涯学習全般に興味があるから
- ⑤ コーディネーター・パネリストに関心があるから
- ⑥ 公民館や学校等から案内があったから
- ⑦ その他 ()

II 全体構成や日時設定などはいかがでしたか？【該当するものに○印】

- ① ちょうど良かった
- ② 開会行事が長すぎる
- ③ シンポジウムが短すぎる
- ④ シンポジウムが長すぎる
- ⑤ その他 ()

III 今回のシンポジウムは、全体としていかがでしたか？【該当するものに○印】

- ① とても良かった
- ② よかった
- ③ どちらともいえない
- ④ 不満だった
- ⑤ とても不満だった

〔上記を選んだ理由：〕

● ご自由にお書き下さい。(感想又は、今後の大会で採りあげてもらいたい課題等)

ご協力ありがとうございました。

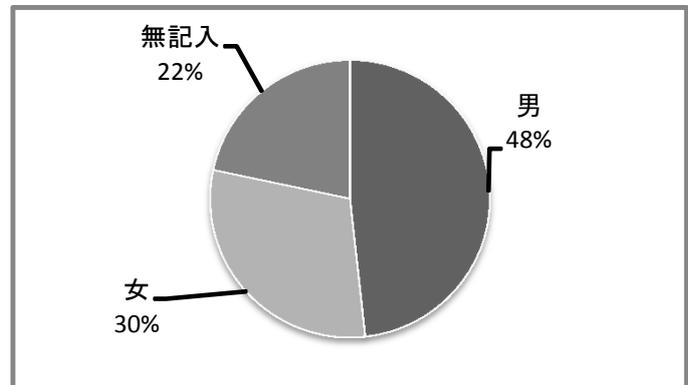
第53回大月市生涯学習推進大会 アンケート結果

アンケート件数: 143
アンケート回収率: 32%

◎ あなた自身について教えてください。

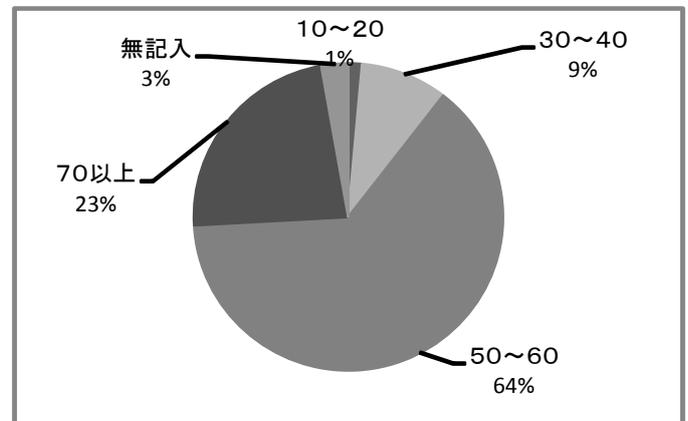
(性別)

男	69
女	43
無記入	31



(年代)

10歳代～20歳代	2
30歳代～40歳代	13
50歳代～60歳代	91
70歳以上	33
無記入	4



1) ご職業はどれに当てはまりますか？

ア	自営業	10
イ	勤め(全日)	31
ウ	勤め(パート・臨時)	15
エ	学生	0
オ	専業主婦	29
カ	無職	50
キ	その他	7
	無記入	1

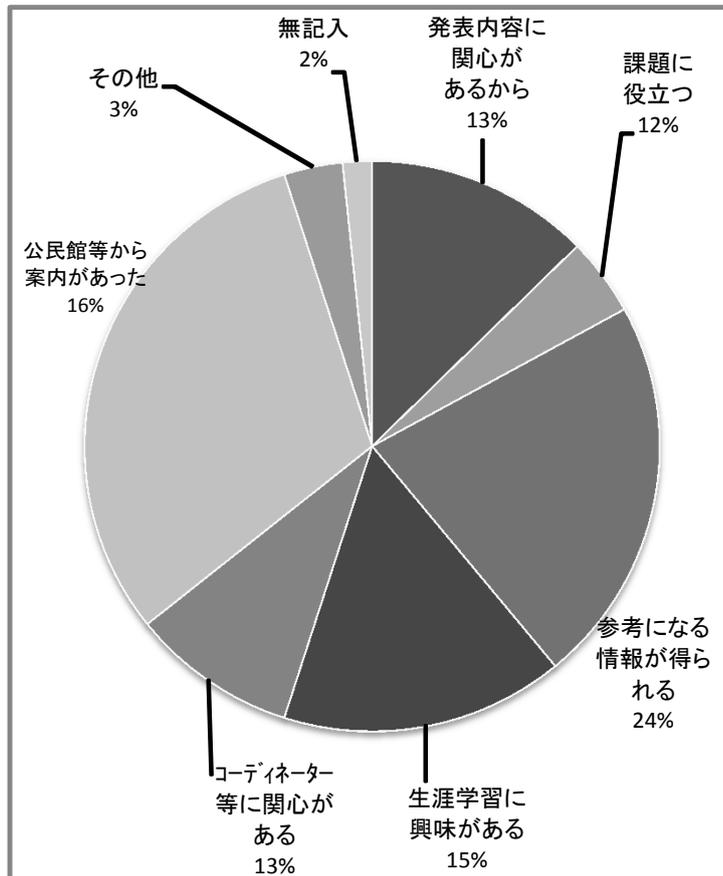
2) 今回の大会を何で知りましたか？

ア	チラシ	4
イ	知人・友人からの案内	9
ウ	新聞記事	22
エ	学校からの案内	16
オ	公民館からの案内	36
カ	所属団体からの案内	65
キ	その他	2
	無記入	0
	二つ回答	12

■2) その他に当てはまり、記入された内容
農業、年金暮らし

I 大会に参加した動機を教えてください。【複数回答可】

①	発表内容に関心があるから	23
②	取り組んでいる課題に直接的に役立ちそうだから	8
③	仕事や地域活動の参考になる情報が得られそうだから	40
④	生涯学習全般に興味があるから	29
⑤	コーディネーター・パネリストに関心があるから	17
⑥	公民館や学校等から案内があったから	56
⑦	その他	6
	無記入	3
	二つ以上回答	39

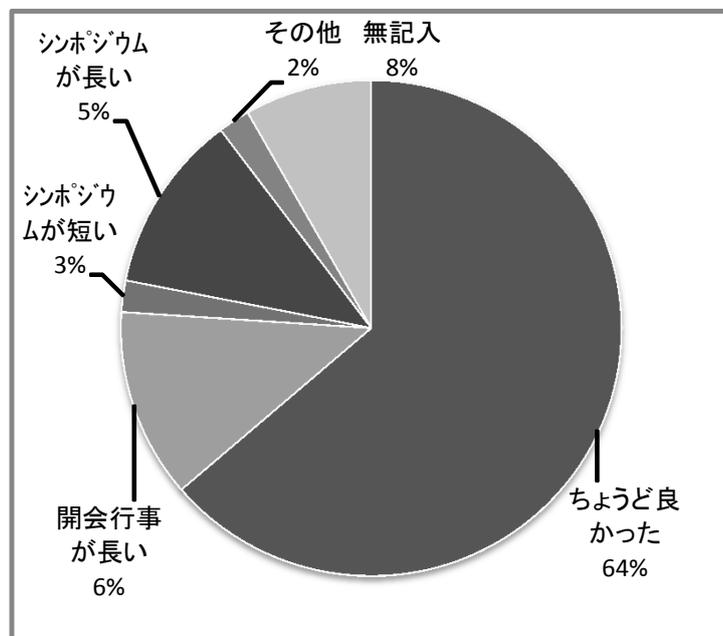


■その他に当てはまり、記入された内容

- ・ 案内
- ・ 大会テーマに関心があるから
- ・ 役柄で人数集めに協力

II 全体構成や日時設定について【複数回答可】

①	ちょうど良かった	93
②	開会行事が長すぎる	18
③	シンポジウムが短すぎる	3
④	シンポジウムが長すぎる	17
⑤	その他	3
	無記入	12
	二つ以上回答	3

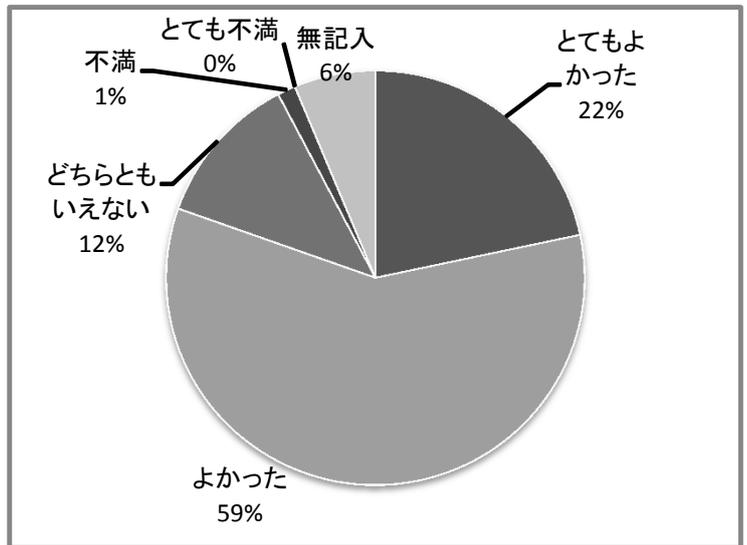


■その他に記入された内容

- ・ 主のシンポジウムをメインにしてもらいたい。アトラクション、開会行事は半分の時間で良いと思う。
- ・ 集中し、参加者が共に交流できる時間が短い
- ・ 開会行事の挨拶が長い。

Ⅲ 今回の大会は、全体としていかがでしたか？

①	とてもよかった	31
②	よかった	84
③	どちらともいえない	17
④	不満だった	2
⑤	とても不満だった	0
	無記入	9



■ 上記を選んだ理由

<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段関係ない話が聞けた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者、パネリストが先頭になってやっているのが見えるから。
<ul style="list-style-type: none"> ・ パネラーが人生の先導者に思える。
<ul style="list-style-type: none"> ・ パネリストの発表が「やった、やってる」の自慢話で長すぎる。 ・ 地域の力にどう繋げていくのか不足と感じた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域で生き生きと活動している方の話で自分自身の何の繋がりのない現在を振り返る機会となりました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近に存在するものの素晴らしさや地域の魅力を見直すことができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマが噛み合っていてとてもいい内容でした。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動内容が良いので、事例を増やしてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表が長すぎ。もっとPRLしてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 3人の皆様の活動に感心しました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ このようなイベントをやっていることが素晴らしい。できれば今後も参加したい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1人1人の発表が分かり易く、勉強になりました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 森林について改めて考えさせられたので勉強になりました。小俣さんや清水さんの活動が聞いて、行動して続けるって立派で素晴らしいと刺激を受けました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの分野で特徴のある事業の発表をいただきましたが、大変参考になりました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 林業の取り組みに協力する人がいる事は素晴らしいことと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小俣さんの話とても楽しかったです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 体験談を交えそれぞれのパネリストの「つなぐ」があり、未来に向ける子ども達に夢を持てるような方向に進めば良いのではないかと。人とのつながりを持った社会になれば。
<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな活動を知ることができて良かった。今日のキーワードにある「つなぐ」でいろいろな活動を繋ぎ、発展させてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内でこのような活動をされている事を知らなかったなので、話が聞いて良かった。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 大月住人として、大月市が盛り上がっていくことを願っていますので、今回の話を聞くことができ良かったです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域活動に活かしていく事が出来そうです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回パネリストとなった団体、個人を知らなかったのが、市内で活躍している人がいる事を知って良かったです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内でこのような活動を行っている人達がいるという事を始めて知りました。“つなぐ”という事がこれからますます意味を持ってくるだろうと感じました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ コーディネーター、パネリストの対応が良かった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 内容が大月市の発展に繋がらない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 同年の方が頑張っている姿を見て、自分もと思いました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 知ることを楽しんだ時間でした。住民となって20年経過しましたが、知らない世界でした。
<ul style="list-style-type: none"> ・ パネリストが3者3様で生涯学習の幅広さを実感できた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大月市の良い事の体験だったらもっと中身の深い物があると思います。体験よりどうしていくかだと思えます。
<ul style="list-style-type: none"> ・ こんな元気な地域の力があつたのに驚きです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元の方がコツコツと粘り強く頑張っている事が分かった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生涯学習の内容として良くなかった。もう少し興味深い内容の学習を取り上げてください。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小俣さんと小林さんの話は面白かった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろ参考になった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ コーディネーターの近藤氏が3名のパネリストの話を上手に引き出していたと思います。無関係に思われる事を繋いでいき、様々な可能性を広げていると思いました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ パネリストの方々には60代を過ぎた方達だと思えますが、イキイキとしておられるのが、毎日の生活にハリがあり仲間があり、いろいろな事に興味を持っているからだと思いました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大月市内ではいろいろな活動をされている方がいると思うので、紹介していただいたり、協力し合って活動が発展していくように多くの方の意見をいただけると良い。
<ul style="list-style-type: none"> ・ パネリストの方々の活動に対する心が感じられたから。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 皆さん(発表者)が体験しているので、感動的でした。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 友人がパネリストだったので発表を聞きに来ました。織物に参加したいと思いました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 無理なく長く続けることの大切さ、自分が楽しく出来ることが大切だということの大切さを感じた。自分にできることを探してみたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 3名とも真面目に楽しんで活動されており、うらやましかったです。2名の製品の販売が順調になれば良いと思います。コーディネーターの近藤先生がとても良かったです。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な地域でつながりを大事にした様々な活動がなされていることを知りました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の知らないことを話されるとわくわくします。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 興味がないことには身が入らない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの特徴を活かすこと、つながることで「地域の力」になることが分かった。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 林業や織物など地域とつながり、活動している様子を発表から感じる事ができたから。また、それぞれが独立している訳ではなく、関連させて製品を作ってみようという意欲も見られたから。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体の進行が良かった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 何かを作る、行動を起こすことの良さを学べて、今後生活に活かせたらと思いました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の様子が分かり易く伝わってきた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ パネリストの方々の活動や生き方に触れることができ、自分の今後、大月市の未来について考える良い機会となりました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の皆様がいろいろな事に取り組まれている事が分かって良かったと思います。これからの私達も楽しんで学んでいければ良いと思いました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ パネリストさんが熱く語っていました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ お三方のご苦労は手に取るように分かるつもりです。しかし良かった、成功したことが中心の話で失敗した話をほんの少し入れていただくともっと共感できたと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 将来を考えた行動であり、子ども達のことを考えている。つながる！！
<ul style="list-style-type: none"> ・ 林業、農業、織物が噛み合っていて良かった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しんで、つないでの活動と活躍と社会への貢献を感じたため。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人と人をつなぐことは大切だと思います。実践していることが素晴らしいと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に活動している内容が良く分かった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内でもこんな事をしている人がいるのを知る事ができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの方の発表は興味が湧きました。今後も続けて頑張ってください。ありがとうございました。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 色々な活動を知ることができたので。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大切な活動です。継続されることを願う。
<ul style="list-style-type: none"> ・ パネリストの専門が違っていたためバラエティに富むのが良かった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 老いも若きも大月市発露並に住みよい街づくり、生涯学習を継続することを願いたします。

■ 自由記入欄(感想または、今後採りあげてほしい課題等)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活、地域の活動からつながりが作れる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 世間話から話が繋がる
<ul style="list-style-type: none"> ・ 料理からの交流
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本大会には行政も加わるべき(地域の活性化は最終的には行政が行うことになる)。
<ul style="list-style-type: none"> ・ これからますます高齢化の社会が進行していきます。自分自身も高齢になり、地域の中での自分の居場所を見つけなければと改めて感じました。大切なことだと思います。今日は貴重なお話をありがとうございました。

<ul style="list-style-type: none"> 地域の力を見つめ、発表してもらうことは良い事だが、良い取組を今後どんな風に繋げていくか(子供に)、それが大月市全体の活性化に繋がる。少子化の問題が改善されるかなど、議論しないとったいない。講師には学校関係者、教師が多いので子ども達に伝えてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> いろんな活動をしていることを知れてよかったです。どんどんPRしてほしい。広報などで知らせたら良いと思う。イベントなど地元の人にもっとPRしてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> 市主催、公民館主催、何らかの登録のある自主活動組織の紹介や数、およその参加人数などを発表してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> 開会式は代表者1人のあいさつで良い。
<ul style="list-style-type: none"> 時間が有効に使われていない。大人でも90分が限度。「休み時間を」。
<ul style="list-style-type: none"> 会場内で無駄口が多い。途中でトイレに立つのは失礼である。
<ul style="list-style-type: none"> もっとディスカッションがあれば良かったのでは。
<ul style="list-style-type: none"> 皆さんの頑張っている姿を応援したい気持ちです。
<ul style="list-style-type: none"> それぞれの皆さんの頑張りと継続性に共感いたします。無理をしなくてやる事が長続きするポイントと強く感じました。
<ul style="list-style-type: none"> 地域の特性で、豊かな環境を備えているかということで、特徴のない限界地もあるわけで、そこに腰を下ろした人間にとっての未来図は大きく差がある。
<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習の推進を考えると、人が財産である大月市は1つの家族となり、助け合うことを意識したい。
<ul style="list-style-type: none"> 笹子林研さん他地域の荒廃している森林もたくさんあるだろうから他の地域の方とも活動していけるといいと思います。子どもがハッピーランドで過ごせたらゲームはいらなくなりますね。
<ul style="list-style-type: none"> 市内での活動をもっとPRしたらいいと思う。
<ul style="list-style-type: none"> 織物にとっても興味を持ちました。
<ul style="list-style-type: none"> 失敗談も取り上げれば。
<ul style="list-style-type: none"> もっと子供・若い方等を取り込んでいくことの難しさ等。鳥沢地区ではエコビレッジ等活動はしています。田植え、収穫祭り、蕎麦作り体験、餅つき大会。
<ul style="list-style-type: none"> 今回のような市内で活躍している団体・個人をこのように取り上げて欲しいです。意欲がある人がいる事を知りたいです。
<ul style="list-style-type: none"> 繋ぐためにはどこが主になればいいのでしょうか？ 個々に行われている素晴らしい活動をコーディネートし、上手に情報発信していけば、とても明るく、夢のある大月市になると思います。
<ul style="list-style-type: none"> 加齢と共に体も動かなくなる。でも自分から進んで趣味をもち、多くの仲間と付き合いたいと思っています。大月市の活性化、発展を願っています。
<ul style="list-style-type: none"> 林業、織物等現代の大月市から離れていくばかりです。もっと具体的に生活に取り入れたらと思います。
<ul style="list-style-type: none"> 内容に入る前に和みのじょいそーらんで盛り上がり、私はテーマ等の入れたことは身につきました。
<ul style="list-style-type: none"> 植物や野草の世界(大月市の自然を深める)を教育現場に作ってください。農を楽しむに感動しました。
<ul style="list-style-type: none"> 農業や林業をしている人達には良かったと思います。大月市には何が大切か、みんなでどういう事をしたらもっと良いとか女性にも関心が持てる事があつたらいいと思います。今問題の子どもについて、聞けるかと思いました。今からの子どもにどう向き合っていけば良いかそういうことにもっと力を入れていけばもっと身の入れ方が違うと思います。これは体験発表だったと思う。
<ul style="list-style-type: none"> 高齢者は資源として活かす方策
<ul style="list-style-type: none"> ボランティアは無償という概念を捨てて、ポイント制などで広められないか。

<ul style="list-style-type: none"> パネリストの発表は概要を、詳しくはディスカッションでとした方が会場も居眠りすることもなく集中できたと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ぜひグループに行ってみたい。1人だけでやってることを多くの人とやってみたい。
<ul style="list-style-type: none"> 地域の絆は大切であり、本人としても、健康に留意しできることを無理なく行いたいと思いました。
<ul style="list-style-type: none"> テーマにある「地域の力」ですが、大人同士のつながり、子どもと地域のつながりが薄く感じられる中で、学校を通じ、授業や給食で学び育てていると思います。大人も子供も“忙しい”を理由につながり薄くなる人が多いので、上手に生活に組み込む事ができるように考えていこうと思いました。貴重なお時間をおありがとうございました。
<ul style="list-style-type: none"> 自分もサークルを持ってやっていますが、やっている事は違っても生きていく目的や目標は同じだと思う。元気をもらいました。
<ul style="list-style-type: none"> 無理なく継続する。自ら楽しめる活動にする。とても素晴らしい内容でした。
<ul style="list-style-type: none"> 花に関すること。
<ul style="list-style-type: none"> ハッピーランドの発表が前向きで良かった。地場産業の織物の普及も良いと思います。林業も今は衰退していますが、大事な資源ですので、いろいろな工夫が大切だと思いました。
<ul style="list-style-type: none"> 雨の天候で駐車場がいっぱいで、車が停められなくて困った。
<ul style="list-style-type: none"> 桃太郎伝説、民話等に関する発表も実績があり、楽しめると思います。
<ul style="list-style-type: none"> 見たところ高齢者が多いようなので、もう少し短くしてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> コーディネーターの進行が良かった。
<ul style="list-style-type: none"> 大月市の大きな財産である『自然』のよさを私(たち)は分かっていないように思えます。「よさ」を未来へ繋げるよう私達自身がそのよさをしっかり学ぶ(感じる)必要があると思います。
<ul style="list-style-type: none"> 駐車場の確保が少ないと思います。
<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習推進大会が何となく地域の活性化という方向へ向いているような大会？と感じる部分もありました。生涯学習ということの捉えは個人が主、そこから派生してグループ・集団へと発展する形が理想かなとそんなことを思いました。1人で学習を続けている人の話を聞いてみても良いのではないかと。本日はありがとうございました。
<ul style="list-style-type: none"> プロジェクタの画面が暗い。
<ul style="list-style-type: none"> 「織物教室」の動画の紹介は良かった。
<ul style="list-style-type: none"> アトラクションのじょいそーらんは元気が出ました。
<ul style="list-style-type: none"> 3名のパネリストの説明が概要説明をしてる人が交互に説明できる方法が良いと思う。1人が終わるまでの時間調整を考慮した方法が良いと思いました。
<ul style="list-style-type: none"> 掲示、広告等により、大月市全域に広げる輪を望む。 “つなぐ、絆、地域づくり、大月市”

第53回大月市生涯学習推進大会一般参加者集計表

	所属団体等	合 計
公民館 (分館含む)	笹子	33
	初狩	37
	真木	11
	大月	32
	賑岡	40
	七保	29
	瀬戸	5
	猿橋	42
	富浜	26
	梁川	19
	青少年育成大月市民会議	12
	文化協会	23
	体育協会	13
	男女共同参画推進協議会	4
	保健活動推進委員会	5
	ボランティア協議会	1
	市内小中学校及びPTA	74
	スポーツ推進委員協議会	5
	前社教委・公連	1
	郷土資料館運営委員会	0
	図書館協議会	0
	青少年育成推進員連絡協議会	0
	商店街協同組合	1
	観光協会	0
	青年会議所	0
	社会福祉協議会	3
	老人クラブ連合会	2
	民生委員児童委員協議会	6
	大学関係	0
	近隣市村教育委員会	0
	山梨県社会教育課	0
	山梨県社会教育委員連絡協議会	0
	各市町村社会教育委員連絡協議会	0
	過去大会出場者	0
	一般	10
	その他団体・市外団体等	2
	一般総計	436
	主催者(教育委員・社会教育委員・地区公民館長)	24
	来賓	8
	シンポジウム関係者(コーディネーター・パネリスト等)	4
	アトラクション関係者(じょいそーらん扇華)	23
	社会教育課(推進大会運営業務従事職員)	11
	無脳薬の会	10
	関係者総計	80
	総計	516

